

公立大学法人横浜市立大学の令和元年度年度計画に対する各委員評価一覧

S(4):年度計画を上回って達成している。または達成の難易度が高い計画を順調に達成している。 A(3):年度計画を順調に達成している。
B(2):年度計画を十分には達成できていない。 C評価(1):年度計画をほとんど達成していない。

令和元年度 年度計画(項目)	頁	法人自己評価	委員会評価(案)	委員評価	コメント
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	7	A	A(3.2)	A	教育面では、学部再編後の学部、データサイエンス学部及び医学研究科看護学専攻博士後期課程は設置計画通り履行されている。データサイエンス研究科の志願倍率は多く、社会人入学者が6割以上を占め、他の研究科も社会人対象の新規プログラムへ移行する動きが見られる。研究面では、主要学術誌等掲載論文数、科研費採択数、共同受託研究数とも大幅に伸びており、研究の活性化が伺われる。
				S	以下の項目についての年度における達成は顕著な水準にあった。
				A	
				A	
				A	
I-1 教育に関する取組	7	A	A(3.4)	S	学生確保、教育改善、学生支援、就職状況等の全般に亘り、努力と成果が顕著に認められる。(アクティブラーニングの実施率9割近くというのも眩目に値する)
				A	
				S	「順調な歩み」以上の証左である。
				A	データサイエンス研究科設置に向けた取組、YOKOHAMA D-STEPの実施・推進、学生への経済的施策の整備等、コロナ対応の前から計画に示された具体的施策を着実に実施した。
				A	データサイエンス研究科については今後も社会のニーズが急増する分野であり、カリキュラムの充実とともに、学生・社会人含め、より多くの人材の輩出を期待したい。
I-1(1)全学的な取組	7	/	/	A	データサイエンス研究科の設置に向けて、高い志願倍率及び高い社会人学生比率を達成した。海外インターンシップ受入先が大きく拡充した。2021年度入学者選抜改革については、各種イベント及びWEBサイトを通じて周知に努めた。
				A	
				A	
				A	
I-1(2)学部教育に関する取組	10	/	/	A	領域横断型教育プログラムの発展が寄与される。全授業科目でのアクティブラーニング導入率が、88.6%に達した。
				A	
				A	
I-1(3)大学院教育に関する取組	13	/	/	A	社会人を対象とする新規プログラムへと移行する動きが、新規入試制度の検討、博士後期課程における必修科目の集中授業形式での試行などに於いて見られ、社会人学生数は医学研究科を除いて85人となった。
				A	
I-1(4)学生支援に関する取組	15	/	/	A	「YCU入学サポート給付金」及び「YCU給付型奨学金」事業の実施ができた。海外インターンシップ受入れ先を、前年度5か所から14か所に拡大できた。「留学生就職促進プログラム(H29年度文科省採択事業)は、順調に進行している。
				A	
I-2 研究の推進に関する取組	17	A	A(3)	A	科研費や共同委託研究の増加と成果の発出などの研究アクティビティの活性化に加え、人類初のCOVID-19の抗ウイルス抗体の検出に見られるように素地の研究力の発揮が認められる。
				A	
				A	科研費助成事業や共同受託研究に積極的に当たっている。また研究・産学連携推進センターの本格的な始動も達成したことを高く評価したい。
				A	COVID-19の抗ウイルス抗体の検出等を着実に実施した。
I-2(1)研究の推進に関する取組	17	/	/	A	医学系研究者と科学系記者との交流会を開催し、本学の世界レベルの研究PRやプレゼンス向上に貢献した。主要学術誌等掲載論文数は905件、H27年度比26%増、科研費採択数は508件、同12%増、共同受託研究数は348件、同25%増となり、いずれも中期計画の目標を上回った。
				A	
I-2(2)研究実施体制等の整備に関する取組	19	/	/	A	「研究データ管理実施指針」が策定されたので、情報セキュリティには注意喚起に努めていただきたい。2病院と医学部の連携は、大学院セミナーの共催などにより前進した。
				A	
II 地域貢献に関する取組	22	S	S(3.6)	S	教員地域貢献活動支援事業の導入、地域志向科目の開設、エクステンション講座の開設、大きなイベントへの学生ボランティア参加などを通じて、大きな存在感を示せた。
				S	「地域志向科目」を全学生の必修とした。「イノベーション都市・横浜」の政策とも連携できるよう、令和2年4月1日に横浜ランドマークタワー7階に、「みなとみらいサテライトキャンパス」を開設した。臨床法医学センターでは虐待児の生体鑑定に取り組み、県内最大規模であった。全国の模範として評価される。
				A	横浜市の抱える課題について多岐に渡る協働の取組を実践している。
				S	TICAD7への貢献、イノベーション都市・横浜との連携等、高評価。
				A	シニア世代にとっての学び直し・知的好奇心の向上・ネットワークづくりだけでなく若い学生と同じ空間に足を運ぶのは健康面でも大きな効果と刺激となると思われる。今後もエクステンション講座の充実を期待している。
III 国際化に関する取組	27	A	A(3.2)	A	COVID-19の影響により年度末には交流が制限されたが、留学生受入、留学生派遣、海外協定校の拡大などに着実な努力と成果が認められる。
				S	・留学生の受け入れについては、「給付型奨学金制度」、「就職促進プログラム」の立ち上げ、留学生宿舎の拡充などにより、志願者数の増加、合格者の歩留まり率の増加が見られた。 ・学生の派遣については、第2クオーターを活用した海外留学・研修プログラム及び、交換留学プログラムの拡充などにより多数の申し込みを得たが、新型コロナウイルスの影響などで派遣学生比率は28.6%で目標(32.0%)に達しなかった。 ・協定校については、英語圏、欧米圏14校(総数72校)との締結を行った。 ・各種国際的イベントを通じて、グローバル人材の育成に寄与した。中期計画の終了時には、各種の目標を達成できるものと期待される。
				A	パンデミックの悪影響下にあつて留学生の実数など一定の実績を得た。
				A	新奨学金制度創設、TICAD7への協力等を評価。
				A	
IV 附属2病院(附属病院及び附属市民総合医療センター)に関する目標を達成するための取組	30	A	A(3)	A	以下の諸項目への実績を総合すると「概ね達成」が合理的な評価となる。
				A	
				A	
				A	
				A	
IV-1 医療分野・医療提供等に関する取組	30	S	S(3.8)	S	がん医療、救急医療、COVID対応、高度急性期病院としての役割の遂行に顕著な実績を残した。
				S	附属2病院ともに、この度の新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを2月初旬から開始、地域の医療提供体制の維持に努めた。2病院で情報基盤の一体化を実現した。附属病院ではTele-ICUのシステムを完成させ、令和2年10月運用開始を目指している。
				S	パンデミックへの対応に顕著な業績を上げていることについて高く評価することができる。
				S	新型コロナウイルス感染症患者受入等、災害拠点病院の役割を果たした。特筆できる。
IV-2 医療人材の育成等に関する取組	36	A	A(3)	A	各般にわたり着実な努力が認められる。
				A	臨床研修医のマッチング率は100%であることが望ましいが、難しい問題と推察される。これは最終的には専門医育成にどの程度影響を与えるものか。
				A	大学病院としての人材育成などの役割について計画通りに着実にこなしている。
				A	各種施策を計画通り実施している。 人材の育成と定着率の強化は将来的な運営基盤の根幹をなす重要な部分であり、今後も一層の工夫と環境整備に期待したい。

令和元年度 年度計画 (項目)	頁	法人自己評価	委員会評価(案)	委員評価	コメント
IV-3 地域医療に関する取組	40	A	A (3.2)	A	病診連携の充実など着実な成果が認められる。
				A	外来患者数の適正化を図るため、2病院とも逆紹介を推進し、登録医・連携病院に繋がる仕組みを強化した。また、市民向け医療講座・広報誌・ホームページ等の充実を図った。附属病院では多職種他部門と調整を行い、入院の短縮化と患者の早期回復、退院を目指し、在院日数短縮の成果を得た。
				A	地域医療連携、在院日数の適正化などの目標について概ね達成されていると思われる。
				A	在院日数の適正化施策、外来患者数適正化策を具体的に実施。
IV-4 先進的医療・研究に関する取組	43	A	A (2.8)	S	治験の増加など着実な成果が認められる。
				A	
				B	臨床研究中核病院の申請について患者情報漏洩事故により見送らざるをえなかった。年度計画を充分には達成できなかったと判断する。
				A	新型コロナウイルス感染症対応の中、着実に取り組み、継続している。
IV-5 医療安全・病院経営に関する取組	45	A	A (3)	A	総合相談窓口の開設など患者サービスの向上、病床の効率的運用、在院日数の短縮化など努力の成果が認められる。
				A	2病院とも患者サポートセンターの体制の改善を図り、患者相談体制の整備を行った。特にセンター病院の外国語医療通訳は延べ2836件に及んだ。補助金等外部資金の確保ができた。人件費率が50%を下回っている。病院長によるガバナンスの強化が図れた。センター病院では「一般病院3」の認定を受け、「救急医療」を含む4項目においてS評価を受けた。
				A	病院長によるガバナンスの強化、センター病院による一般病院3の認定（日本医療機構評価機構）など、本項目について着実に実績をあげている。
				A	機能種別「一般病院3」の認定、救急医療等はS評価。
V 法人の経営に関する目標を達成するための取組	54	A	A (3)	A	一部コンプライアンスに難を認めたが、総合的には計画を達成している。
				A	
				A	新型コロナウイルス感染症対応の結果、赤字決算となったが、テレワーク整備・システム整備を開始、YCU人材育成PLANの実施、附属2病院再整備案の取りまとめ等、課題等を積極的に進捗させた。在院日数・外来患者数の適正化、料金の見直し、人件費管理の徹底等、努力したが新型コロナウイルス感染症対応を最優先することが止むを得ないと評価する。
				A	
V-1 業務運営の改善に関する取組	54	A	B (2.4)	B	患者情報漏洩事故の発生は遺憾なことであったが、適切に善後策を講じており、今後の改善に向け、教職員一体となった取り組みが認められる。
				B	患者情報漏洩事故に引き続き諸作業について評価するところであるが、本事故の発生自体はコンプライアンスの充分でなかった状況を表している。
				A	
				B	昨年度発生したメール誤送信による個人情報流出の件については、原因の究明調査が進み、再発防止についての検討がすすめられたと認識している。その一方、設置された泌尿器科教室内に設置する臨床研究適正実施部会がすべて大学内病院関係者で占められているというも有効性に疑問が残るところである。一部は客観的・独立的な視点で関与できるメンバーを入れることで牽制機能が働き、有効なものになると思われるため、今後の検討課題とされることを期待する。
V-1-(1)コンプライアンス推進及びガバナンス機能強化等運営の改善に関する取組	54	A	A (3)	A	臨床研究におけるメール誤送信による患者情報漏洩事故が発生した。その後、調査委員会を設置し、今後の再発防止について全学的な取組がなされているが、特に情報の管理について根本的な検討をお願いしたい。
				A	
				A	
				A	
V-1-(2)人材育成・人事制度に関する取組	57	A	A (3)	A	優秀な教員確保のため、学長のガバナンスの下で教員人事の議論が行われた。市大の特長を出す人事に期待する。「YCU人材育成PLAN」に基づき、職員のグローバル化への対応、ICTスキルの向上を図った。また、テレワークを試行的に導入したところ、新型コロナのために積極的に活用している。
				A	
				A	
				A	
V-1-(3)大学の発展に向けた基盤整備に関する取組	59	A	A (3)	A	横浜市に於いて再整備の事業化が進められている中、「運営体制」「機能配置」「病床規模」「立地」「整備用地」「跡利用」を軸として、「横浜市立大学附属2病院・医学部等再整備構想案」を取りまとめた。創立100周年に向けて、募金、記念事業プロジェクト、百年史編集等の準備が進行中である。
				A	
				A	
				A	
V-1-(4)情報の発信に関する取組	62	A	A (3)	A	
				A	
				A	
				A	
V-2 財務内容の改善に関する取組	62	A	A (3)	A	センター病院は赤字となったものの、大学・附属病院で黒字を維持しており、評価に値する。なお、非常勤医師の無給雇用は、医学界の旧来の悪弊でありその是正が妥当と考える。また、COVID-19の影響で、公私を問わず全国の医療機関の多くが財政危機に瀕しており、国と市の財政支援が望まれる。
				A	
				A	結果的にはパンデミックへの対応などあって、法人全体として赤字決算となったものの、収支の均衡を維持することについて評価できる。
				A	経費精算事務の効率化や会計システムの更新・効率化は、コロナウイルスでの急な在宅勤務のような事態でも業務を滞らせないために必須の領域であり、さらなる働き方改革を見据え、積極的な導入を期待する。
V-2-(1)運営交付金・貸付金に関する取組	62	A	A (3)	A	
				A	
				A	
V-2-(2)自己収入の拡充に関する取組	62	A	A (3)	A	自己収入の確保については、外部資金による研究費の獲得に取り組んだ。また、寄付金収入は件数、金額、リピーター件数とも年間目標を上回った。
				A	
				A	
V-2-(3)経営の効率化に関する取組	63	A	A (3)	A	
				A	
				A	
IV 自己点検及び評価に関する目標を達成するための取組	64	A	A (3)	A	
				A	令和元年度計画に取り組むと同時に、次年度は第3期中期計画後半期に入るため、法人評価委員会からの留意事項等を踏まえて、令和2年度計画策定が進められた。
				A	必要対応を多岐に渡って確実に進めていると評価できる。
				A	
【新設】総合					

総合コメント	全般に亘り、努力の成果が認められ、同慶の至り。なお、患者情報漏洩事故については、善後策が講じられているが、患者や市民への信頼を損ねた重大事案であり看過できないものと考え、今後へ戒めの意味を込めて厳しめの評価とした。起きてしまったことは覆せないが、今後、教職員一体となって、より輝き続ける大学づくりに努力されるよう期待している。
	中期計画前半最後の年であり、この3年間には教育・研究面で飛躍的な進歩が見られた。学部再編、データサイエンス学部の発足で志願者数も増え、新しい時代に向けての教育が軌道に乗りつつある中で、令和2年度から発足するデータサイエンス研究科の院生募集で一般的な大学院の志願倍率を大きく上回ったうえ、社会人入学者が半数を超すなど今後の大学院の在り方に一石を投じるようになった。研究面では、主要学術誌掲載論文数も確実に増加し、外部資金獲得増にも反映されていることが分かる。一方、臨床研究におけるメール誤送信による患者情報漏洩事故については、情報の管理について十分な検討をお願いしたい。国際化への取組の成果は著しく、留学生の受け入れ、送り出しとも順調に進捗していることは大いに評価できる。
	パンデミックへの対応について、貴学に附属する病院は「公」という観点で獅子奮迅の活躍をされている。これは本評価表の中での単なる「S」評価ではなく、「特出し」をして「大きなS」として評価したいところである。今回の評価において一部に「B」を付けざるを得なかったものの、貴学職員の士気が「公」という立場からみて極めて高いものであることを示していると思われる。これは病院に勤務する職員についてのみのことではなく、日常的に組織間連携で協業しているすべての職員がそのようであるからこそ最前線の医療者もそのようにできると考える。このような高い士気の故に、貴学に課せられた多くの事業を推進することができていると総合的に評価することができる。
	前々年度から前年度、大変な努力により様々な課題のクリアが期待されていたが終盤発生した新型コロナウイルス感染症への対応が最優先となったのは残念。しかし、市民を守る絶対的役割が發揮されており、附属2病院のスタッフの方々に敬意と謝意を示したい。
教育プログラムにおいてはデータサイエンス研究科の設置や、アクティブラーニングを主体とした教育の質の向上を図り、これからの社会へ対応できるための大学教育改革へ尽力をされている点を評価したい。医療面では地域医療機関との連携を進め、入院日数や病床の効率的な管理とを評価するとともに、今後も医療の質の向上と経営の効率化を期待する。他方、コンプライアンス推進とガバナンス機能強化については、既存の業務の中に組み入れていくのが難しい領域ではあるが、定期的な研修の充実、チェック体制の徹底・管理体制の見直しを引き続き検討されたい。	